

## 今日の説教のポイント<創世記 21 章 1~21 節>

### ①サラの「笑い」の理由をさらに深く考える

1~8 節は待望の子イサクが与えられたサラの「笑い」で満ちています。この笑いの理由をどこまで深く考えられるかが鍵です。子が与えられたから、ではまだまだです。聖書は繰り返し「**主が約束された通り**」(1a,1b,2)と記しています。「神様は約束を守られるお方なのだ。この神様が私たちと共にいて下さるのだ」、聖書はそれを伝えたいのです。このことを思いながら生きる時、全ては変わってきます。

### ③サラに見る、神を忘れた(持たない)時の私たち人間の姿

ところが、サラは、イシュマエルとイサクがからかっている(遊んでいる：口語訳)のを見て不安に駆られます。イサクを与えられてあんなに笑ったサラ。それがもうあれこれ考えて不安で一杯。サラの顔に笑いはないでしょう。良きことが起これば「神様ありがとうございます」と満面に笑みを浮かべたのに、難儀が起これば色々心配し出して悪い画策。しかし、それらは全て取り越し苦労だったのです。なぜなら、神様は全くそのようなことを考えておられなかったからです。人は、神無しに、あるいは神に問うこと無しに生きる時、色んな不安で一杯になるのは当然の存在なのです。そして、それがさらに悪い結果を生み出す場合が多いのです。

### ③神様は全ての者のことを思いにかけて下さっている！

私たちはともすると、神の選びの民イスラエルを良い者、その他の民を悪者あるいは少しランク下の者として聖書を読みがちです。すると、私たちは異邦人ですから悪者、ランク下の者となり、どう考えていいか分からなくなります。しかし今日の箇所は、悪者も良い者もないし、ランクの上も下もない、神様は全ての民のことを思って下さっているということをはっきり語っています。神様はハガルとイシュマエルを見守り、「**あなたの子孫はイサクによって与えられる。しかし、あの女の息子も一つの国民の父とする**」(13-14)と言われたからです。全ての人がこの神様にとって大切な存在なのです。